

令和元年度事業報告

令和元年度は、前年に開設した入退院支援室を活用し、安定した入院患者数の維持と稼働病床を有効かつ効率的に利用できたことで収益増を図り、また、諸経費の削減に努めて参りました。

その結果、令和元年度の決算は、経常収益が31億5,900万、前年比で1億3,400万の増加、経常費用は31億1,600万で1,400万増加し、4,290万の黒字決算となりました。

主な内訳としては、

収益では、(1)保険診療収益が9,700万、その他診療収益が2,600万の増収、(2)介護収益が370万の減収(ただし、通所リハビリは190万の増収)(3)訪問看護収入1,000万の増収があげられます。

経費では(1)人件費が6,000万の減少(人員の効率化による給与とそれに伴う法定福利費の減少)(2)薬品・材料原価が2,100万の増加(患者数の増加による影響)(3)一般経費では、①減価償却費が2,400万増加(電子カルテの更新等、多額の新規資産の購入にあったことによる影響)②租税公課が1,590万増加(多額の資産購入に加えて、10月より消費税率が10%にあがったことで控除対象外の消費税が増額している影響)③募集費が430万減少④修繕費が500万増加、⑤委託費が650万増加、があげられます。

令和元年度の1日当たり平均入院患者数は167.1人で前年度比6.4人増加し、内訳では一般病棟が124.1人で前年比5.9人の増加、療養病棟が43.0人で、0.5人の増加になりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が発令されたことにより、患者数の減少等により各部門の収入が減少しているところからのスタートであるため、感染対策を十分に考慮し、患者の受け入れと、より一層の業務の効率化により収益増に努めて参ります。

併せて、近隣機関との連携を図り地域の医療ニーズに応え、地域医療に貢献し、且つ永続的に安定した経営が図れるよう取り組んで参ります。

■ 設備・機器導入

ー土地・建物設備ー

- 非常用発電機バッテリー（南館） : 4月完了
- クーリングタワー修繕工事 : 5月完了
- 本館冷暖房装置メンテナンス工事 : 8月完了
- 非常用発電機バッテリー（本館） : 8月完了
- 南館空調機（デイケア・ナース） : 8月完了
- 非常照明改修工事 : 未完了

ー医療機器ー

- メールサーバー : 5月完了
- 胃透視装置（健診） : 5月完了
- 医用テレメーター : 5月完了
- 輸血検査用遠心機 : 5月完了
- 人工呼吸器 : 5月完了
- オンデマンド複合機（健診） : 6月完了
- 心電計 : 9月完了
- 骨密度装置 : 10月完了
- デジタル乳房X線診断装置 : 3月完了
- 除細動器 : 3月完了
- 一包化錠剤仕分け装置 : 未完了

ー他ー

- 軽自動車（健診） : 3月完了

ーソフトー

- 電子カルテシステム : 9月完了

■ 人 事

ー入職者 : 12名ー

医師1名、看護部門5名、技術部門6名

ー一定年退職者ー

6名（看護部門4名、事務部門2名）

ー中途退職者 : 26名ー

医師1名、看護部門19名、技術部門4名、事務部2名